

## サービスサーニングを通じた出会いと成長

活動先：学内・篠島・名古屋

クラス：岡多枝子先生

### 1.自分の成長と気づき

私たちの班は、前期のテーマを児童養護とし、後期からは活動先を篠島とした。児童養護の理解を深めるなかで、非措置児童だけでなく非措置児童を含めた児童について理解を深めていきたいと考えていたときに、篠島でゴミ拾いをするという誘いを岡ゼミ3年、原田ゼミ3年の先輩から頂き、それから篠島に魅了され後期の活動を篠島とした。

ゴミ拾いに協力してくれた「NGO ア∞ス」と篠島からの繋がりができ、それ以後「NGO ア∞ス」の活動にスタッフとして関わらせてもらっている。参加者にどう楽しんでもらうか、どう宣伝すれば人がたくさん集まるかなど学内の活動だけではできない経験である。社会人の方とこういった話し合いをしたり活動をしたりする機会は学内ではほとんどない。これが私にとってとても刺激的であり、魅力的であった。篠島での活動も、「NGO ア∞ス」の活動も出会いがなければできなかった活動である。SL 活動を通じた出会いが、活動のきっかけをつくってくれた。

自ら動いていくと活動先でたくさんの人と出会い、自分にはない考え方をする人やさまざまな人生を歩んできた人と接することができる。たくさん活動をすれば、それだけ人脈が広がるということに気がついた。それから活動に積極的に参加することや話し合いの場では積極的に発言をすると自分の考える力が成長できるということに気がついた。このことに気がついてからは積極的に発言をしていくことを心がけている。

発言のことに絡めて言うと、ディベートをすることの楽しさに気がついた。さまざまな職種の人と、一つのテーマについてディベートすることにより自分の視野が広がり、そして自分の考えを伝えることができる。特に、自分がこれからの人生でしたいことをそういった場で話すと、そのことに関係した人を紹介してもらえることがよくある。そこからまた新しい人脈ができ、これからの自分の成長につながっていく。多くの場で夢や理想、これからしていくことを話しすることにはさまざまなメリットがあり、そして自分の夢や理想を話す場所がないので、多くの人の前で自分の夢や理想が話せられるようになることは重要であると考えた。話せば話すだけメリットが生まれるので、消極的にならず積極的にディベートや話し合いの場で話すこと、そしてわかりやすく伝えられることがその夢や理想を現実にしていくために大切だと気づいた。

今年一年間を通して学べたことは、出会いを逃さないということ、そして動くということである。動かなければ何も始まらないし、学べることはない。学びたいのであれば自分で活動先を探し、どんどんと飛び込んでいくこと。学内の活動だけに収まらず、外の活動を通してさまざまな年代の方とふれあい、話を聞き自分の教養にしていくことが大切である。話を聞くことで自分の考え方に幅が広がり、そして議論をすることで新しい考えも出てくる。たくさん人と会い、そして話すことが重要であることも学んだ。

## 2.この活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

今年1年間の活動を通して見えてきた社会課題は、福祉に対する社会の見解というのがやはり「介護」や「障害」、「低賃金」、「3K」などあまり身近なものとして捕らえていない、ということである。

私が現在関わっている「NGO ア∞ス」のイベントで福祉について取り上げたときには、「福祉のイメージが変わった」、「福祉って身近な問題で、おもしろい分野だ」というような意見をいただいた。なかには大学の講義でたまたまあった「地域福祉」を履修して現在勉強しているという人もいた。

現代社会で福祉が必要だといわれているなかで、福祉に対するイメージはあまりよくなく、そして身近であるはずなのに身近なものとして捉えられていない。日本福祉大学では「ふだんの 暮らしの しあわせ」として福祉を定義している。私はまさにそのとおりであり、この福祉の考え方をより多くの人に知ってもらいたい。福祉は特別なものではなく、自分の暮らしのなかにあるものだ。「ふだんの 暮らしの しあわせ」とは、と覚えてもらおうと、より福祉が分かりやすくなるのではないだろうか。

福祉に対して今の社会は、関心は高いけれど、どこか他人事のように思っているのではないかと私は感じている。自分はホームレスにはならないと思っけていても、いつホームレスになるかわからないのが今の時代だ。いつ自分に何が起こるかわからない。いつ自分に何が起こってもいいように社会福祉を充実させる必要があることがわかれば社会福祉に対する予算を増やすことにも反対されなはずであり、予算が少ないことにも批判がくるはずだろう。

社会問題、社会課題として福祉を考えていくことが必要とされていると考えた。そして福祉をより質の高いものにしていくために、中央政府で全てを決めるのではなく、一番住民に近い地方自治体に権限を渡し、地方で福祉や教育を進めていくことがこれからの福祉、教育であるのでは、ということが見えてきた。

地域活動では、「NGO ア∞ス」に参加させてもらえようになってから名古屋でもさまざまな活動が行われていることがわかった。「NGO ア∞ス」のようにゴミ拾い活動をしている団体や、児童虐待防止をよびかける団体、私立高校の父母会・子ども会がしている「私立高校の授業料無償化運動」など、愛知ではNPOやNGOが盛んな地域だということが見えてきた。知多のNPOがとても進んでいることは、松下先生が担当している「福祉NPO論」の講義で知ることができていたが、名古屋でもこんなに盛んだということは「NGO ア∞ス」に参加しなければ見えなかったことである。自分から知ろうと思えばいくらかも知ることができるのが、NPOやNGOの活動である。まだまだ自分が知らない活動は愛知県内や自分の出身権県である三重県でもたくさんあるはずだ。

この一年間のサービスラーニング活動で、自ら動き、積極的に参加していくことがどれだけ自分の成長につながっていくのかということ学んだので、これからもっと多くの団体、活動を知り、参加していこうと思う。それは自分が興味のある分野であるかどうかに関わらず、幅広い分野で探し参加していくことが大切であると考えた。